

## 第10回「3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会」

### 議事概要

日時：令和5年6月23日（木）13:30-15:30

場所：アクセントア会議室/赤坂インターシティ AIR

#### <サマリー>

2023年度の第1回目の開催となり、現地・リモート合わせて約200名が参加した。

冒頭座長より、海外連携の重要性と、そのために今年度コソボで開催される FOSS4G を活かしつつグローバルコミュニティの盛り上げ・認知度向上を行う必要性などについて説明された。

続いて令和5年度 Project PLATEAU 取組全体像報告が行われ、実施している取り組み・進捗について報告がされた。

その後、個別プロジェクト紹介が行われ、最初にアクセントアからエコシステム構築について報告がされた。

次に、データ整備・高度化・効率化の観点で、アジア航測から標準仕様拡張・LOD2自動生成ツールについて、国際航業からデータ整備についての報告がされた。

次に、コミュニティ形成・利用環境改善の観点で、三菱総合研究所から公共コーディネートについて、Code for Japan からデジタルケイパビリティ強化について、パノラマティクスから情報発信・コミュニティ形成について、シナスタジア・Unity から SDK 開発について、Eukarya から VIEW3.0/実証環境開発について報告がされた。

続いてアクセントアからユースケース開発について、概要・進捗報告・一部ユースケース紹介がされた。

個別プロジェクト紹介後、国土交通省都市局からリーガル面の論点整理結果報告がされた。

その後、三菱総合研究所から先日開催された自治体向けの補助金説明会の概要の報告がされた。

次に、PLATEAU の中長期ビジョンロードマップについて報告がされた。

最後に、総合討議及び国土交通省都市局からの事務連絡として次回の分科会開催予定が案内された。

## I. 座長挨拶（青山学院大学教授 古橋座長）

- ・ 今年度の分科会は初開催となるが、引き続き今年度も活発な議論をさせていただきたい。手を動かして PLATEAU を使っていくために、座長として推進しているかについて進捗報告をさせていただきたい。
- ・ PLATEAU が国内に広まりつつあることは間違いなく皆さん感じていらっしゃる通りだと思うが、今後は海外に PLATEAU のデータ・ツールを広めていくことが重要だと考えている。今年度いよいよ PLATEAU が Phase2 に入っていく中で、エコシステム構築のために海外連携が重要となる。
  - 特にエンジニア観点では、ツールを使いこなして PLATEAU のデータを上手く利用するために海外連携が重要である。
- ・ 分科会にて昨年紹介したが、オープンソースの GIS コミュニティとして FOSS4G が存在しており、毎年いずれかの国で会議が開催されている。
  - 今年はこれからコソボで開催されるが、昨年イタリアのフィレンツェで開催した際は、1,000 人程度のエンジニアが集まりディスカッション・プログラミングを実施した。
  - 毎年様々な企業や組織がスポンサーとして関与しているが、今年は初めて PLATEAU もスポンサーとなって参加しており、世界的にも PLATEAU というブランドが周知されていく大きなタイミングになるのではないかと考えている。
  - 本年度コソボで開催される FOSS4G においては、スポンサーを上手く使いながら、CityGML というオープンスタンダードなデータフォーマット然り、PLATEAU に関わる様々なオープンソースのツールを支える技術者と会いながら、PLATEAU のデータを使ってもらってグローバルのコミュニティとして PLATEAU のデータと周辺の連携する技術等々をコミットして立ち上げていくことが重要である。
  - グローバルコミュニティを盛り上げていくという事は、私を含め支援していきたい。
- ・ グローバルの中での PLATEAU の位置付けについては世界中の 3D 都市モデルを比較・検討した評価・ベンチマークの論文が参考になる。
  - 論文の内容は、世界 40 都市で 47 の項目のカテゴリで 3D 都市モデルを評価・分析したもの。
  - PLATEAU のデータはかなり上位に位置している一方、まだまだ認知度は低く、ヘルシンキやアムステルダムが最上位となっている。
  - これらの都市に負けないようにデータを整備した上で、グローバルに認知させていくことが重要なのではと考えている。
  - また、Map The New World という言葉をこれまで使っているが、今年はコソボに行って Connect The New World という形で積極的に宣伝していきたい。

## II. 令和 5 年度 PLATEAU 取組全体像（国土交通省 都市局 内山補佐）

- ・ 今年初開催の本分科会では、今年度の PLATEAU での取組を共有したい。
  - 今回の分科会ではプロジェクトに直接参加していない自治体の皆様もお呼びしているため、改めて紹介したい。

- ・ ビジョンは昨年度から変更ないが、今年度の新目標としてエコシステム構築がある。
  - 様々なプレイヤーがそれぞれの役割を果たして PLATEAU を盛り上げていくということを、ビジョンにしている。
  - 国の役割としては3つあり、1つ目は技術開発・ベストプラクティス創出・国際展開、2つ目は自治体に対する補助金など地域の社会実装支援、3つ目はオープンイノベーションを起こすような機会・環境整備に力を入れていく。
- ・ 具体的なスコープは、データ整備の高度化・効率化、ユースケース開発のベストプラクティス創出、オープンイノベーション創出、地域の社会実装の4つである。
  - データ整備の高度化・効率化
    - ◇ AI を利用した自動的なモデリング技術の開発などを指しており、昨年度から継続して実施している。
    - ◇ データ連携性・流通性の観点で、BIM モデルとの互換性を高めるための情報交換要件の策定やコンバーターの開発や空間 ID へのコンバーター開発などを実施している。このように、既存の様々な GIS や設計データの連携性を高めるための仕様策定やコンバーター開発を進めていく。
  - ユースケース開発のベストプラクティス創出
    - ◇ これまでにない新しいサービス・ソリューションを生み出すための技術開発を実施している。
    - ◇ ユースケース開発は引き続き行うが、その他にも開発ナレッジの公開・ドキュメンテーション・OSS 化や、民間サービスの事業化支援・VC への紹介・ネットワーキングも行う。
  - オープンイノベーション創出
    - ◇ SDK など、データを使いやすい環境の整備やコミュニティ育成などを実施している。
    - ◇ コミュニティ形成の観点で今年は PLATEAU AWARD 2023 の開催を予定している。その他にも、今年はアクセラレーションプログラムを初開催しており、8人という限られた枠ではあるが、プロトタイプを行う予定である。一方、あまり集客できていないことは懸念としてある。
    - ◇ デジタルケイパの観点で、Code for Japan と一緒に自治体向けの研修プログラム提供、自治体のネットワーキング支援などを実施している。
    - ◇ ムーブメント惹起の観点で情報発信も実施している。具体的には Web サイト更新などを行っている。今年はコンセプトフィルムの刷新を検討している。引き続き様々な方法で情報発信をおこなう。
  - 地域の社会実装
    - ◇ デジタル基盤構築支援事業という補助金があるが、今年は2年目であり昨年度はかなり多くのアプライをいただいている。
    - ◇ 本支援の目的は、自治体への実装を進めていくことであり、基本的には、自治体の予算を使って、データ整備とソリューション整備を支援するための施策を実施していく。
- ・ プロジェクトチームに関しては8名で進めている。
  - 各担当としては、全体を私と鈴木、PM として国交省のメンバーが担当している。

- 人事異動により、再来週には変更が発生する想定である。
- ・ 主なプロジェクトを紹介する。
  - FOSS4G
    - ✧ スポンサー参画は先ほど古橋座長から紹介いただいた新しい取り組みである。
  - 高精度デジタルツイン構築システム
    - ✧ AIを活用した取り組みを実施している。PLATEAU を利用してゲームエンジンで扱うようなコンシューマークオリティの CG データを自動的に生成するというシステムである。
  - 地下埋設
    - ✧ 地下埋設物モデルを利用して地下埋設物に関連する協議や管理を効率化するユースケースを開発する。
  - LOD2 自動生成ツール
    - ✧ 点群を利用した自動的なサーフェス生成の AI 開発を実施する。
  - PLATEAU VIEW3.0 開発
    - ✧ 昨年度 PLATEAU VIEW2.0 を開発したが、本年度は PLATEAU VIEW3.0 の開発を進めている。
  - PLATEAU VIEW2.0 の運用
    - ✧ PLATEAU VIEW2.0 の運用を本格化させようと思っている。自治体にアカウントを発行して、職員がノーコードで PLATEAU を閲覧するためのシステムを各自治体単位で利用できるようにする。いくつかの自治体に声をかけて全方位的に実施しているが、各自治体が独自の Viewer を作成し、独自の GIS データを付加して内部利用・パブリッシュが出来るようにしたい。
  - PLATEAU SDK2.0 開発
    - ✧ ゲームエンジン向けの SDK に新機能を追加してバージョン 2.0 にアップデートする。
  - 都市空間デジタル基盤構築支援事業
    - ✧ 自治体向けの補助金については、執行・説明会ともに始まっている。説明会に参加出来なかった自治体は YouTube で配信しているのでご覧いただきたい。
  - 地域ハッカソン
    - ✧ 新しい試みとして地域ハッカソンを始めている。
    - ✧ 大体の枠は埋まったが、自治体が PLATEAU ハッカソンなどのイベントを自腹で開催する場合に人・資料・審査員などを派遣して一緒に開催しようとしている。
    - ✧ 我々直轄のイベントも開催しているが、我々だけでは限界があるので、自治体イニシアチブで開催する取り組みを支援している。
- ・ 今年は補助金・直轄含めて約 70 の自治体で新規整備が進む予定であり、今年度末で 200 都市、人口カバー率でいうと 60%程度となる。
- ・ 今年度も多くの受託企業に参加いただいている。

### III. 個別プロジェクト紹介

## 1. エコシステム構築（アクセンチュア 増田暁仁氏）

- ・ 我々は令和2年度・令和4年度にて PLATEAU 支援させていただいた。今年は加えてエコシステムとユースケースのテーマを支援させていただいている。プロジェクトスコープとしては PLATEAU の全体マネジメント、中長期的なエコシステム形成戦略の策定、ガイドブックの更新、官民連携の支援が主である。
  - PLATEAU の全体マネジメント
    - ✧ 先ほど内山補佐より、プロジェクト全体像のご説明があったが、約40のプロジェクトにおける横断的なマイルストンの確認やスケジュール管理やトラブルシューティングなどをサポートしている。
  - 中長期的なエコシステム形成戦略の策定
    - ✧ ロードマップの策定・経済価値定量化を支援している。本日後半のアジェンダでご説明させていただき中長期ビジョンも検討支援させていただいている。
  - ガイドブックの更新
    - ✧ ハンドブックやガイドブックが整備されつつある。将来に向けてどういうことをしなくてはならないのか、今までを含め何をしなくてはならないかを検討している。
  - 官民連携の支援
    - ✧ 本日の分科会やマッチング支援イベントなどをサポートしている。本日後半のアジェンダで後ほど個別にご紹介させていただく。
- ・ この場で改めてニーズ・シーズシートについてご説明させていただく。
  - 分科会会員の皆様に連絡してニーズ・シーズシートを回収している。
  - この度、ニーズ・シーズシートをバージョン2.0に更新させていただいた。
    - ✧ 自治体に関して、ニーズ・シーズシートを最初に作成した際には、まだ3D都市モデル未作成だったため、最新の検討状況を反映するために、バージョン2.0を回収しており、現在、約2/3程度の自治体から提出いただいている。
    - ✧ 事業者に関して、ニーズ・シーズシートを最初に作成した際には、まだ3D都市モデルを利用したビジネスが実現されていなかったため、最新の検討状況を反映するために、バージョン2.0を回収しており、現在、約1/3程度の事業者から提出いただいている。
  - 7月17日のマッチング支援イベントに向けて、皆様にどのようなニーズ・シーズがあるのかを確認させていただきたい。それによって、次回の企画や来年のエコシステム形成のインプットとするために洗い替えを実施しているため、皆様にご協力をお願いしたい。
  - ホームページ上の雛形を差替え予定のため、7月になるまでは雛形が古い状態が続く。そのためニーズ・シーズシートのフォーマットはメールを最新版とし、そちらを更新いただきたい。

## 2. データ整備・高度化・効率化

### ○標準仕様拡張、LOD2自動生成ツール（アジア航測 黒川史子氏）

- ・ これからご紹介するのはデータ整備・高度化・効率化の中の標準仕様拡張と LOD2 自動生成ツールについてである。こちらは引き続きアジア航測にて担当させていただく。概要をご紹介する。
- ・ 本プロジェクトの主な役割の1点目として、3D都市モデル標準製品仕様書・3D都市モデル標準作

業仕様書・3D 都市モデル整備のための測量マニュアルの3つの標準ドキュメントの改定を行っている。

➤ 3D 都市モデル標準製品仕様書

- ◇ 3D 都市モデルのデータの構造・定義・品質・フォーマットなどを定めるものである。
- ◇ 各都市ではその中から必要なものをピックアップして拡張製品仕様書を作っていただく想定のもと、こちらはベースとなるカタログと位置づけている。

➤ 3D 都市モデル標準作業手順書

- ◇ 先ほどの3D 都市モデル製品標準仕様書に基づいて3D 都市モデルを作るための、標準的な手順や留意事項などが記載されている。

➤ 3D 都市モデル整備のための測量マニュアル

- ◇ 3D 都市モデルを作成するためのベースとなる航空写真測量などの計測を行うためのマニュアルである。

・ 3つの標準ドキュメントに関して以下の標準仕様拡張を実施している。

➤ 3D 都市モデル標準製品仕様書・作業手順書

- ◇ 標準仕様拡張の結果、概ね世の中にあるものを反映できたと思うが、今年度はユースケースでの検証を踏まえて検証結果を反映していく。
- ◇ また、これまで128都市で拡張製品仕様書を作成していただいているが、その中で汎用的に利用可能なものは標準製品仕様書に反映していくということを検討している。
- ◇ 加えて、今年度のプロジェクトの過程で皆様から頂いたご質問やご意見等も反映していく。
- ◇ さらに、これまではテクスチャの標準仕様を定めていないため新規に定める予定である。
- ◇ 昨年度までに整備した128都市の3D 都市モデルをバージョンアップする作業と属性を拡充する作業をしている。既に3D 都市モデルを作成された自治体の皆様には色々お願いをさせていただいているが、引き続きご協力をお願いしたい。

➤ 3D 都市モデル整備のための測量マニュアル

- ◇ 地物の追加に伴い、これまでの測量マニュアルや作業規程の準則をカバーできていないものについてはこのマニュアルの中で今年度定めていく。

・ 本プロジェクトの主な役割の2点目として、LOD2の自動生成ツールがある。

- 昨年度はLOD2の建築物モデルの自動生成ツールを開発した。こちらも今年度バージョンアップする予定である。
- 合わせて新規にLOD1、2の道路モデルを自動的に生成するツールも開発も予定している。
- 開発の成果はOSSとして公開することを想定している。

○データ整備（国際航業 嶋野雄一氏）

- ・ 弊社は全国5つの事業拠点と47の営業所があるため、本日ご参加の自治体様に関しては、お気軽にご相談いただきたい。
- ・ データ作成実証が我々の役割であり、ユースケース開発22件のうちの約10件分のためのデータ作成を担当している。
  - 事業者の要望を聞いて、要望にあった範囲・詳細度の3D 都市モデルを作っていく。

- 実証を通じて、標準仕様の可用性や動向を調査・検討することも目的となっている。
- ・ 業務場所としては、千代田区・品川区・港区など 10 都市分が今回のデータ整備対象場所となる。内容としてはデータ作成実証とそれぞれの拡張製品仕様書の作成を行う。また、検討内容として標準仕様の有用性検証も行っていく。
- ・ 全体的なスケジュールとしては、全て 10 月末を目処にデータ整備を完了し、ユースケースの事業者にお渡しする予定で動いている。
- ・ ユースケース 01 番でデータ整備を行う大牟田市を例としてご紹介する。我々はこのユースケースに必要な建築物・道路・都市計画決定情報・土地利用・災害リスク情報・地形の基本セットと呼ばれるものをユースケース事業者を提供する。
  - 一部市街地については LOD2 を整備する。
- ・ データ整備と同時に、標準仕様の有用性検証を行う予定であり、CityGML の有用性に関する検討とテクスチャの検証の 2 つを予定している。
  - CityGML の有用性に関する検討
    - ✧ ユースケースの事業者・データ作成を行う事業者・ソフトウェアベンダの 3 者に対して、CityGML の構造や利用面についてヒアリングして課題等をまとめていきたい。
  - テクスチャの検証
    - ✧ テクスチャの仕様は定まっていないため、我々は過去の各社のデータを見てドキュメント化していきたいと考えている。

### 3. コミュニティ形成・利用環境改善

#### ○公共コーディネート（三菱総合研究所 林典之氏）

- ・ 我々は創業約 50 年のシンクタンクグループである。プロジェクト PLATEAU が立ち上がった 2020 年度から支援している。
- ・ 主に自治体に関与される公共的な社会課題解決型ユースケースや PLATEAU 補助事業のお手伝いをしている。
  - 支援ユースケース数は 60 件程度、支援自治体数は 80 件程度である。
  - 今後補助事業を活用したい自治体の支援も実施している。
  - PLATEAU から派生するプロジェクトとして、東京都デジタルツイン実現プロジェクトや静岡県 3 次元点群データ可視化プラットフォームの支援も実施している。
- ・ 全体の位置付けとしては、国土交通省からお話があったエコシステム全体の中では地域の社会実装を支援している。
  - 先進的なユースケース開発やデータの仕様など国が検討したものを、地域・自治体に広げていく支援を実施している。
- ・ 自治体支援の中で、データのカバレッジを広げることの必要性を意識している。
  - 現在は 130 都市、今年度終わりには 200 都市程度のカバレッジを達成する見込みであり、人口カバー率は高い。
  - PLATEAU は基盤的なデータであり、全国のカバレッジがあると共通で出来ることがあるためカバレッジが重要である。

- ▶ 一方で、今回の自治体説明会にて意見があったが、PLATEAU は先進的な取り組みであるため自治体にとっては情報が不足している。この情報の普及活動も大切である。
- ▶ データカバレッジ拡大について、自治体支援の観点から貢献したい。
- ・ 今年度採択された 48 自治体のデータ整備・ユースケース開発の支援と、来年度の補助事業利用を計画する自治体のサポート実施している。
- ・ PLATEAU 自体は 4 年度目に入っているため、自治体発・地域初の現場業務に適用されるユースケースを重視して取り組んでいきたい。
- ・ スケジュールは割愛するが、令和 5 年度ではデータ整備が前半・ユースケース開発が後半、令和 6 年度では予算の関係があるため春・夏頃から動いて、補助事業と自治体の予算もうまく折り合うようにお手伝いする。

### ○デジタルケイパビリティ強化 (Code for Japan 石塚清香氏)

- ・ 当団体はシビックテックという IT 技術を活用して市民主体で地域の課題解決を目指していくコミュニティづくりを中心とした事業を行っている。
  - ▶ そのような事業の中で、最近は自治体向けの研修を行っている。
- ・ 先ほどの三菱総研様のお話からもあった通り、3D 都市モデルの整備は進んできている中、どのように地方公共団体の業務改善に活かしていくかが認識されていないという課題がある。
  - ▶ 職員も忙しい中でスキルを身に着けることが難しいという現状がある。
  - ▶ 3D 都市モデルを利用して業務を効率化する方法を伝えていく、業務を効率化する能力を伸ばしていくことを主眼に置いて研修をメニューとして構築した。
- ・ 国土交通省が推進するまちづくり DX を本プロジェクトのビジョンとして参考にしている。
  - ▶ オープンデータを使って様々な課題解決を図っていく必要があるということで進めている。
- ・ 今年に関しては 4 つの地方自治体に関してデジタルケイパビリティ強化を進めている。
  - ▶ 前半は横須賀市と熊谷市である。
  - ▶ 後半は豊橋市と新潟市である。
  - ▶ 大体 10 人~20 人くらいで研修を実施する。
- ・ まちづくり DX の資料の中では自治体が獲得すべきケイパビリティとして 3 つのコモンが定義されている。
  - ▶ オープンデータを作成・活用するためのリテラシーや地域の方・民間の方と協業しながらまちづくりの課題を解決していくスキルを付けていく必要があるということが示されている。
- ・ 3D 都市モデルを利用しながら、データを生み出し・読み解き、それらを繋げていくということによって業務効率化に繋げていく研修をおこなう。
  - ▶ 研修内容としては、仕事を変える・データを生み出す・データを読み解く・データで伝えるという一連の流れの中で、3D 都市モデルや QGIS を利用しながら研修をしている。
- ・ 全体としては筋肉質な研修プログラムになっており、5 日間それぞれで半日を使う想定。様々なデータ利用、課題解決ツール利用などを一連の流れの中で研修している。最終的には利用方法とそれによる業務効率化・業務課題解決への繋がり腹落ちを目指していきたい。



## ○情報発信・コミュニティ形成 (パノラマティクス 宿院卓馬氏)

- ・ 今回我々の JV チームとしてはオープンイノベーション創出のために、情報発信/コミュニティ形成と、地域コミュニティ形成の2つのグループが一緒に活動している。
- ・ まず簡単に我々がどういった組織なのかについて説明させていただきたい。
  - 我々と角川アスキー総合研究所は PLATEAU 初年度から情報発信分野で支援している。
  - 私のパノラマティクスというチームは元々ライゾマティクスアーキテクチャという名前で色々な仕組みづくりを変えていくようなアクションをしてきたチームである。
  - 角川アスキー総合研究所は週刊アスキーなどのメガコンテンツパブリッシャーとして、BtoBの動きを担っていただいている。特に、ハッカソンやコミュニティ形成を支援頂いている。
  - 今期から新しく森ビルと MIERUNE に参画いただいた。
  - 森ビルに関しては、都市づくりの開発・営業支援に向けたツールの独自開発や行政・自治体のまちづくり支援等を行っているため、地域コミュニティの形成という観点で支援いただいている。
  - MIERUNE に関しては、QGIS などの開発をされているため、開発のドキュメント提供なども含め活動している。
- ・ 我々の業務としては情報発信・コミュニティ形成を主に行う。これまでの PLATEAU の情報発信の総括もしつつ、それに基づくコンセプトムービーの刷新を含めた情報発信を我々で行う。
- ・ 角川アスキー総合研究所ではコミュニティ形成という活動をより幅広く地域にも拡大していくことで PLATEAU コミュニティを幅広く根付かせていく動きをしていく。
- ・ 今年のパノラマティクスの主要チャレンジとしては、VI マニュアルの更新・有識者インタビュー・コンセプトムービー制作がある。
  - 有識者インタビューに向けてはインタビュー候補との調整を実施中である。
  - コンセプトムービーのプランニングも実施中である。
  - アートディレクションの部分では初年度から支援しているが、本来は別業務のまちづくり DX 推進に向けた 3D 都市モデルの利用環境向上業務の中で開発されるストーリーテリングの方のコンセプトメイキングやビジュアル監修も担当している。
- ・ 今年角川アスキー総合研究所の主要チャレンジとしては PLATEAU AWARD の運営とアクセラレーションプログラムの運営である。
  - 昨年度の PLATEAU AWARD に繋がる動きということで様々な PLATEAU NEXT という活動に総称して活動を行っていく。ハッカソン・ハンズオン・ライトニングトーク・スタートアップピッチなど昨年実施した活動を PLATEAU AWARD に収束させていく。
  - その他にも、アクセラレータープログラムを新規で実施している。
- ・ MIERUNE の QGIS については別資料があるため後ほど解説する。
- ・ 地域アイデアソン・ハッカソンの運営・支援については、地方の自治体主導で行っていただくハッカソンの支援業務を行う。
- ・ 森ビルの方でも地方公共団体向けネットワークキング促進を実施していく。
- ・ スケジュールについては細かいので割愛するが、年間を通じて様々な情報発信業務を実施していく。
- ・ 先ほどの MIERUNE の QGIS プラグイン設計・開発・検査業務について、現在オープンソースの GIS ソフトウェアの方では CityGML のデータを欠損なく読み込むということが出来ないという現状が

ある。

- ▶ LOD1 の全ての主題属性を変換するライブラリを作成して、そのライブラリを用いた QGIS 向けのプラグインを公開していただくことで、様々な方の開発の助けとなるようなことを考えている。
- ・ 森ビルの方で地方自治体の皆様の交流会を 10 月に行う予定であり、長野県茅野市を舞台とする予定。
  - ▶ 森ビルから自治体へお声掛けしている最中である。
  - ▶ 2泊3日で PLATEAU の理解を深めていただくとともに、情報交換やネットワーキングを実施する。
  - ▶ 興味がある方がいれば、国交省もしくは私どもにご連絡いただきたい。

#### ○SDK 開発 (シナスタジア 有年亮博氏)

- ・ 前半シナスタジアから、後半 Unity から発表させていただく。
- ・ PLATEAU SDK という PLATEAU データをゲームエンジンで利活用するためのソフトウェアの開発プロジェクトを担当している。
  - ▶ オープンイノベーション創出の枠組みの中で取り組んでいる。
  - ▶ 昨年は PLATEAU SDK1.0 を開発しており、10 万ビュー、GitHub でもスターが 100 以上となっている。
- ・ シナスタジアは位置センシング技術を活用した VR・AR など観光エンタメ系のサービス開発を行う東京大学発のソフトウェアベンチャーである。
- ・ 今年の PLATEAU SDK は Unity と JV で開発している。
  - ▶ 主にシナスタジアがゲームエンジンに 3D 都市モデルをインポートする箇所の機能開発を担当している。
  - ▶ 主に Unity が個別具体のツールの開発を担当している。個別具体的なツールとは、GIS での利用に特化したゲームエンジン向けのツールや観光エンタメ向けの AR アプリケーションを作るときにあると嬉しいツールなどを指す。
  - ▶ Unity と UNREAL ENGINE がデファクトのソフトウェアであるが、今年度はシナスタジアの SDK は Unity と UNREAL ENGINE 両方に対応しつつ、個別具体的なツールについては Unity に限定して開発を進めていく。
- ・ SDK は 3 つの追加機能を実装している。
  - ▶ 都市モデルに付随する情報を取得する機能に関して、利便性の向上と高速化を実現する。
  - ▶ ゲームエンジン内の PLATEAU の 3D モデルを分割・統合できる機能を追加している。
  - ▶ 衛星写真から地形のテクスチャを生成する機能、およびデフォルトで見栄えの良いマテリアルを貼り付ける機能を追加している。

☆ 元々、LOD1 や一部の LOD2 はマテリアルやメッシュがなかった。

#### ○SDK 開発 (Unity Technologies Japan 清水啓太郎氏)

Unity Technologies はデンマークで創業したゲームエンジンの会社である。

- ▶ 現在はモバイルゲーム等を中心に大きくシェアを伸ばしている。

- 本社はアメリカにある。
- ゲームエンジンはリアルタイム 3D エンジンを搭載しており、PC・モバイル・VR・AR など様々なデバイスに対応出来る。
- Unity ではさらに簡単にゲームを作れるようなアセットストアを提供している。
- 元々の主戦場はゲームであったが、VR・AR などのインダストリーにも親和性があり、本年度の PLATEAU に参加した。
- 身の回りのアニメ・ゲームなどのエンターテインメントなどにも Unity が幅広く利用されている。
- ・ Unity の PLATEAU SDK にアドオンする形で Rendering Toolkit、Map Toolkit、Sandbox Toolkit、AR Toolkit の 4 つのツールキットを本年度は開発している。
- ・ 4 つのツールキットについて、全部で 3 回のリリースタイミングを予定している。
  - 1 回目は 7 月に Rendering Toolkit と Sandbox Toolkit のリリースを予定している。
    - ✧ Rendering Toolkit は、PLATEAU の都市モデルを様々な LOD それぞれ適したグラフィックスへの向上処理やシミュレーションの簡易化などのツールである。
    - ✧ Sandbox Toolkit は、例えばクルマや人を配置して様々なシミュレーションを行うための環境を提供する。
  - 2 回目は 10 月に Map Toolkit、AR Toolkit のリリースを予定している。
    - ✧ Map Toolkit は BIM や GIS 等の各種データを位置合わせして表示するためのツールキットを提供する。
    - ✧ AR ツールキットは都市モデルを用いて簡単に AR アプリケーションを開発出来る環境の提供を目指している。
  - 3 回目は各種フィードバックを皆様からいただいて、そちらのアップデート対応を行う想定をしている。

#### ○VIEW3.0/実証環境開発 (Eukarya 馬場英道氏)

- ・ 本プロジェクトではまちづくり DX の推進に向けた実証環境構築業務を担当している。
  - お馴染みの所では PLATEAU VIEW の構築を実施している。
  - 体制としては、Eukarya、凸版印刷、Takram、Pacific Spatial Solutions、一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会 (AIGID)、MIERUNE の JV である。
- ・ Eukarya はクラウドファンディングで 3 億円を調達したところから始まったユニークな研究開発スタートアップである。
  - 元々はデジタルアーカイブや可視化の研究をしており、Re:Earth というプロダクトから PLATEAU に参画した。
  - 主なプロダクトは APLLO というデータベースと、Re:Earth という 3D 地球儀を使ったデータビジュアライゼーションツールである。
- ・ 本事業の位置付けとしてはオープンイノベーション創出のために、PLATEAU VIEW3.0 の開発を担うものである。
  - PLATEAU VIEW3.0 の新規開発

- ◇ エンドユーザー向けの PLATEAU VIEW の機能改善を行う。
  - ◇ 昨年度の PLATEAU VIEW2.0 はエンドユーザー向けの機能改善ではなかった。今年度のチャレンジとしては、PLATEAU VIEW 自体の UI・UX の向上と新機能の追加を考えている。
  - ◇ 新機能としてはヒートマップの表示や簡単に作図が出来る機能や Google Street VIEW との連携などを考えている。
- PLATEAU VIEW2.0 の運用支援
  - ◇ ワークフローの見直しと CMS の改修を実施予定である。
  - ◇ 昨年度の課題は PLATEAU VIEW のデータを管理していく際、初めてバックエンドのシステムにデータを乗せるということをしたため、様々な複雑なワークフローがあった。
- WebAR 開発
  - ◇ WebAR 自体が発展途上であるため、PLATEAU を WebAR で扱う上での技術的課題のサーチとプロトタイプ版として WebAR 機能を VIEW3.0 にて公開を実施する予定である。
  - ◇ PLATEAU VIEW で様々なデータ表現を実現してきたが、AR のような新しいインターフェースでの提供は出来ていなかった。
  - ◇ ユーザーが手軽に試すという意味では WebAR はまだまだ出来なかった。
- ストーリーテリング機能開発
  - ◇ データを一覧化するような可視化手法しか提供できていなかったため、今回はある種のアート作品の立ち位置で PLATEAU データを扱いながらストーリーテリング型マップとして、PLATEAU VIEW とは切り離して提供していくことで別の可視化表現を皆様に見せていきたいと考えている。
- WebGIS 調査
  - ◇ PLATEAU VIEW では内部的に Cesium を利用しているので、Web 上での PLATEAU データの利用となると Cesium 一択であった。
  - ◇ 今年度のチャレンジとしては世界中で利用されている地図エンジンを網羅的にリサーチしていく。具体的には MapLibre GL JS、Mapbox GL JS、deck.gl などの有名な地図エンジンを対象に、PLATEAU データを利用していくためには何が必要なのかについて、技術的な検証を行っていく想定である。
- ・ PLATEAU VIEW2.0 については、8 月から 9 月にかけて品質検査やデータ変換の FME 側の部分を完成させていく想定である。
  - 9 月頃から直轄事業・補助事業で整備されているデータを受け取りながら適宜 VIEW に搭載していくという流れを想定している。
  - CMS との連携は 10 月頃を想定している。
  - ワークフローについてはデスクトップを一部併用していくことを想定している。

#### 4. ユースケース開発 (アクセンチュア 増田暁仁氏)

- ・ ユースケースのベストプラクティス開発では、今回は官民双方の先進的なユースケースの開発を支援し、主なスコープとしてはユースケース開発マネジメント・ユースケース開発の取りまとめを支援している。

- ・ プロジェクト全体としては全部で 25 件弱程度のユースケース開発を支援している。
  - 特に、地下街や地下埋設物を対象としたユースケース開発プロジェクト、不動産 ID マッチングや高精度デジタルツイン構築実証などもテクノロジーの観点で新しいプロジェクトであり象徴的なユースケースである。
  - 資料後半に全ユースケースを説明するスライドを用意している。ご興味がある方はご覧いただきたい。
- ・ プロジェクト全体の進捗状況としては、キックオフ・実証計画書の確認をした後、今まさに都市局・各事業者と一緒に要件定義の検討状況を確認している。
  - ここから具体的な実証・本番をどう進めていくのか、ワークショップの進め方などを 6 月～8 月に検討する予定。
- ・ また、自治体・事業者の方で興味がある方がいればアクセンチュアにて人材マッチングするため連絡いただきたい。

#### IV. リーガル面の論点整理結果報告（国土交通省 都市局 内山補佐）

- ・ 昨年度の分科会で主要なアジェンダに上がっていた法的な論点整理が完了したので、その結果を報告する。
- ・ 個人情報保護法・著作権法・意匠法・商標法・不正競争防止法の 5 つの法令について、PLATEAU の 3D 都市モデルの整備・活用の関係を整備し、3D 都市モデルの導入ガイダンスという資料に記載している。
  - 3D 都市モデルは用途・面積などの属性情報が入っており、その元データは都市計画基礎調査であった。これをオープンデータにしてよいかというのは若干ファジーだったため今回整理した。
- ・ 個人情報保護法については改正があり、新個人情報保護法の考え方として、大体は個人情報に該当する整理となっている。
  - 自治体内部が保有している限りは個人情報に当たるという前提で、オープンデータにするためのガイドラインを整備した。
  - 自治体によって判断があるため、絶対こうして欲しいというものではない。
  - “都市計画基礎調査のオープンデータ化に向けた土地利用現況及び建物利用現況の取り扱いについて”という通知も都市計画課から出している。
  - 簡単に言うと、制度改正によって個人情報ファイル簿を作成する必要が生じた。
  - 自治体の中には、扱いが難しく困っている・何をしたら良いか分からないという方も多かったと思うので、ご参照いただきたい。
- ・ 知財関連で問題になるのは利用シーンである。
  - 有名なキャラクターが写っている看板があったとして、その 3D 都市モデルを利用してアプリ開発をして良いのかという懸念があった。
  - 航空写真や地上測量にテクスチャを付与する行為のうち、都市スケールの利用に関しては付随対象著作物の利用に該当する可能性が高い。

- 基本的には付随対象著作物としてアプリ開発などに 3D 都市モデルを利用して良いが、キャラクターなどの著作物のみを切り出して利用してはならない。

## V. 自治体支援業務

### 1. 補助金説明会ラップアップ（三菱総合研究所 林典之氏）

- ・ 今週まさに自治体への補助金説明会を開催しており、その概略を説明する。
  - オンライン方式で2時間程度開催した。
  - アクセスアカウント数は約560、単一アカウントで複数人参加する自治体もいたため、かなりの人数に参加していただいた。
  - PLATEAU 補助制度を来年度以降使っていただきたい自治体に対して、どういう事業で、どういう段取りで手続きをすると、どういうことが出来るのかについて改めてお伝えした。
  - 加えて、自治体から質問受付・回答を行う時間も設けた。
- ・ 説明会資料のうち PLATEAU 補助制度のサポート内容の部分について紹介する。
  - 他自治体が何をしているかを知りたいというニーズが多いため、昨年度の自治体の取り組み事例を紹介した。
  - 年度の前半でデータをつくり、真ん中でユースケースをつくり、後半ではオープンデータ化するという推奨スケジュールについても紹介した。
  - 通年でのお悩み事相談やマッチングイベントもご紹介をさせていただいた。
- ・ 説明会資料のうちユースケース事例の部分について紹介する。
  - 水害のシミュレーションやまちづくりのシミュレーションなど可視化するという入り口から入る自治体が多い。
  - 一方、独自のユースケースを実装している自治体もあるため、そのような地域発の課題解決をお願いした。
  - データ整備に必要な費用は算出方法が出ているが、ユースケースの費用が分からないため事業者にご相談してテーマ別に参考金額を調査・提示した。
- ・ 補助事業に取り組んだ4自治体からプレゼンも頂き、以下のお話をいただいた。
  - PLATEAU は技術面も事業面も新しいため、自治体職員としては勉強が重要となる。
  - やりたい部局・担当がいても、PLATEAU とは何なのか？費用感はどの程度なのか？効果は定量的にどの程度か？などの質問がされるため、そのような情報が片内説得には重要である。
- ・ 質疑応答の時間では、費用対効果・費用感・データ更新について多くの質問が行われた。
  - 更新について、初年度は補助金をもらったとして、都市計画基礎調査と連動させながらどのように継続整備するかについての質問がなされた。

### 2. マッチング支援イベント開催案内（アクセンチュア 増田暁仁氏）

- ・ 先ほど三菱総合研究所から補助金説明のラップアップをいただいたが、それに連動する形で 3D 都市モデル整備・活用に向けたマッチング支援イベントを開催させていただく。
  - ユースケースの開発が出来る事業者をご紹介するとともに質疑応答の時間も用意する。

- マッチング支援イベントに登壇いただく方と傍聴いただく方のどちらにも発言いただく。
- どんな事業者が何を出来るのか、自分たちでこういうことをしようとしているがどうしたらできるのか、いくらかかるのかなどの議論のきっかけになればと考えている。
- ・ 概要としては、ニーズを持たれている自治体とシーズを持っている事業者に直接意見交換・マッチングしていただくもの。
  - 挙手いただいた自治体・事業者にご登壇いただき、皆様に傍聴いただくという流れを想定している。
  - テーマとしては防災・都市計画・人流交通解析・XR の 4 つで実施予定。
- ・ 日時は 7 月 19 日と 7 月 20 日を予定。
  - 2 回目は 10 月頃の実施を予定している。
  - 進め方としては、90 分のセッションを 1 日 2 回実施する。
  - 参加したい時間だけをセレクト頂いて参加することが可能である。
  - タイムテーブルは仮だが、13:00-16:00 開催を想定している。
  - セッションは早く終わっても前倒しない予定。それによって途中参加しやすくする。
  - タイムテーブル・参加事業者・参加自治体を仮で記載させていただいている。直前に正式アナウンスをする。
- ・ イベントにおける議論のポイントは、事業者の個別ユースケースや提供機能となるため、質疑応答を実施したい。
  - 3D 都市モデル一般の疑問は先ほどの補助金イベント側を中心にフォローいただく。
  - 質問にその場で答えられない場合はイベント後に直接連絡を取っていただければと考えている。
- ・ 登壇いただく事業者は以下を予定。
  - 防災：ESRI ジャパン、Eukarya、フォーラムエイト
  - 観光：シナスタジア、Psychic VR Lab
  - 人流・交通解析：国際航業、計量計画研究所、構造計画研究所
  - 都市計画・まちづくり：ホロラボ、インフォラウンジ
- ・ 登壇いただく自治体には自治体紹介資料フォーマットを記入いただく予定であり、事業者からの提案・ディスカッションを想定している。
  - マッチング支援イベントにご登壇いただかなくても、自治体ニーズ紹介資料フォーマットを記入いただいて事業者と個別に連絡を取るということも可能である。
  - もしくは記入の上、アクセントゥアにご連絡いただければ事業者を紹介することも可能である。
- ・ 興味関心がある自治体・事業者にはご参加いただきたい。

## VI. PLATEAU の中長期ビジョンロードマップ共有・討議（国土交通省 都市局 内山補佐）

- ・ PLATEAU の中長期ビジョンを作成している。
  - 2020 年度に PLATEAU を始めた際の分科会で PLATEAU の中長期展開の方針を作成していた。
  - 一方、その後 3 年間程度は中長期ビジョンを作成していなかったため、プロジェクト開始から 4 年の現在を踏まえてビジョンを作りたいと考えていた。

- ・ 中長期ビジョンは都市局のアクションプランという性質もあるが、官民連携で進めていくという大前提の上で、今回の分科会のコンセンサスとして世の中に出していきたい。
  - ビジョンは本年度頭から海外事例調査やプロジェクト参画企業 100 社程度からの提案・意見を踏まえ検討してきた。
  - 本分科会の中でコンセンサスを取った上で7月くらいに最終化をしていきたい。
  - そのうえで令和6年度の予算要求やプロジェクト採択にこの議論を適用していく。
- ・ アジェンダとしてはプロジェクトゴール、ゴール達成に向けたステップ、PLATEAU エコシステムの構築、アクションプランの4つである。
- ・ プロジェクトゴールは、「都市デジタルツインにより社会に新たな価値をもたらす/地域の課題を解決する」である。
- ・ ゴール達成に向けたステップについて、フェーズを3つに分けるということを実施している。
  - 現在の PLATEAU はプロトタイプ開発を行う Phase1 である。
    - ✧ 先進的な自治体がデータを作り、先進的な企業や地域コミュニティがデータを使って色々な取り組みを行い、先進的なユーザーが使うという構造であった。
    - ✧ PLATEAU のポテンシャルを引き出すためのフェーズと位置付けられる。
  - 次の PLATEAU は Phase2 を目指す必要があり、その目標・目的は魅力的なサービスの実装である。
    - ✧ 今までは“あったら良い”サービスを開発してきたが、“なくてはならない”サービスを開発することが Phase2 の目標である。
    - ✧ そのためにはデータ整備都市を先進的な層だけではなく、関心層に拡大していくという事が必要である。
      - 具体的には、今年度で 200 都市に拡大するため、今後は 500 都市に増やしていくなどが KPI となる。
  - Phase3 では、魅力的なサービスが創出されることで、自分の街でも利用したいという機運が生まれ、参加企業が広がり、興味関心が薄い自治体も参加するようになり、普及が完了する。
- ・ Phase1 から Phase2/3 へ進んでいくためには、PLATEAU エコシステムが重要である。
  - 自治体・企業・地域コミュニティがそれぞれの役割を果たしていく体制を作っていくことが重要。これを PLATEAU エコシステムと呼び、それを構築することを目指していく。
- ・ 国による支援・ドライブは引き続き実施していくが、自治体がイニシアチブを持ってデータ整備、企業が新サービスを実装、コミュニティが企業へのシーズ提供・自治体のケイパビリティ向上を実施するというエコシステムを目指していきたい。
  - 今までは国が直接企業・自治体・コミュニティに呼びかけていたが、これからは企業と自治体、コミュニティと企業などに自律的に取り組んでいただき、それを国が支援するという形にしたい。
- ・ Phase2 の具体的な施策の一部を紹介したい。また Phase2 の期限は 500 都市のデータ整備を目指す、28 年までと設定する。
  - データ整備ケイパの拡大
    - ✧ 3D 都市モデルは急速に普及している技術であるため 3D 都市モデルを作る主体が少ない。



- ◇ 大手4社が PLATEAU を作る主な企業であり、地元の中小企業では中々 PLATEAU を作れないという現状がある。
- ◇ そのため、国内の 3D 都市モデルの整備産業を育成していく政策を考えている。
- 社会実装ユースケース・地域初サービス
  - ◇ 今までの PLATEAU は新技術を使ってサービス開発を実施してきた。
  - ◇ 一方、それでは自治体の日常業務や企業の管理業務にすぐ導入することは難しい。
  - ◇ そのため、日常業務に生きるサービスを実装していくための支援を考えている。
- 地域初コミュニティ
  - ◇ 国交省が直轄でハッカソンを開催することには限界があるため、自治体・企業・地域コミュニティが主体となって自律的に開発イベントを開催して欲しい。
  - ◇ そこに対して我々が人・ナレッジを支援していくという事をしたい。
  - ◇ そうすれば 100 箇所でも 200 箇所でもイベントを開催できる。
- 自治体のデジタルケイパ向上
  - ◇ PLATEAU を関心層に拡大していくためにはデジタル技術・知識を拡大していく必要がある。
  - ◇ 地域コミュニティと連携した研修・ワークショップを自治体職員対象で実施したい。
  - ◇ PLATEAU を発注するためにも知識が必要である。
- 産官学連携プラットフォーム
  - ◇ 本分科会が産官学連携プラットフォームである。
  - ◇ この官民コンソーシアムを拡大予定であり、プロジェクトの主体としてこのプラットフォームが動けるような展開を考えている。
- それぞれの施策に対して、想定している主体・担当を資料上で分類している。
- ・ 社会実装を本格化していく上で、PLATEAU はどの程度の経済効果を創出するのかをアクセントリアに算出していただいた。
  - 2027 年には 1,172 億円の経済効果が創出されると推計されている。
- ・ PLATEAU は EU が作った 3D 都市モデルの技術を国内に適用しているものであるため、海外の方が進んでいる部分が多い。そのため主に海外事例を調査したので一部紹介する。
  - オランダにおける元データオープン化・LOD2 自動生成
    - ◇ 3D 都市モデルの自動生成は欧州で進んでいる。
  - 自治体データのクラウド管理
    - ◇ 国内事例として自治体データのクラウド管理が進んでいるという事例である。
    - ◇ AIGID が My City Construction にて同期施工の点群データ・ドキュメントをクラウド上で管理していつでも検索できるようにしている。
    - ◇ これと同じようなものとして PLATEAU CMS を作成した。
  - フィンランドにおけるデータ・サービス公開プラットフォーム
    - ◇ フィンランドでは 3D 都市モデルが最も進んでいると思われる。
    - ◇ ヘルシンキではデータとユースケースが一体となったカタログサイトのようなものがある。
    - ◇ 自治体が 3D 都市モデルを新しく導入する際、どのようなユースケースがオープンデータ

によって創出されるのかをイメージしやすくするために重要である。

- ▶ フィンランドにおけるサービス実装型ビューワー
  - ✧ 現在の PLATEAU で体系的な解析・処理を行う場合、別のシステムが必要である。
  - ✧ ヘルシンキではビューワー自体に解析機能が組み込まれている。
- ▶ 韓国におけるスマートシティ人材開発
  - ✧ 韓国では結構な規模でスマートシティ人材を大学と連携して育成しており、真似したい。
- ▶ 農水省・デジタル庁による政府機関・自治体参加の横断 SNS
  - ✧ 農水省のデジタル改革共創プラットフォームである eMAFF が参考になる。
  - ✧ 自治体と国が参加する Slack があり、質問を含め気軽なコミュニケーションが出来る。
  - ✧ PLATEAU の場合、企業と国交省の Slack はあるが、自治体を含めた Slack も作りたい。
  - ✧ 制度的にセキュリティや認証が難しいという問題はある。
- ▶ EU における環境アセスメント義務化による空間データ活用促進
  - ✧ EU では環境アセスメントが義務化されている。
  - ✧ 制度的に位置付けられた PLATEAU の利用方法が定まっているとデータの整備も進む。
  - ✧ このように、利用の方を制度化するという施策もあるのではと考えている。
- ▶ フィンランドにおける産官学連携プラットフォームのイニシアチブ
  - ✧ 日本では国交省のような役所が直接 PLATEAU を推進している。
  - ✧ 一方、フィンランドでは企業が中間団体としてオープンイノベーション創出を引き受けている。
  - ✧ このように、中間団体主体のプロジェクト推進がサステナビリティの観点から必要と考えている。
- ・ ビジョンについて意見があればチャットもしくは質疑応答のお時間にていただきたい。
- ・ 令和 6 年度の案件組成に向けて RFI を進めている。
  - ▶ 開始時期を前倒しして 2 回行うという新しい取り組みを予定している。
  - ▶ 1 回目の RFI #1 は、アイデアを募集するものであり、出来るかどうかは問わない。
  - ▶ 2 回目の RFI #2 は、具体的な技術提案を募集する意見募集型 RFI をとなっている。
    - ✧ RFI #1 のアイデアを元に意見を深掘りして、技術フェージビリティを調査した上で仕様案を作成し、RFI #2 でそれに対し意見を募る想定である。
  - ▶ 公示は例年通り 12 月末を予定している。
- ・ 今後の本分科会の発展という観点で、海外のように中間団体ベースのプロジェクト推進のやり方が必要と考えている。これから徐々にプロジェクトを民間主導型へシフトしていきたいと考えている。

## VII. 総合討議（参加者全員）

### ○有識者コメント（青山学院大学教授 古橋座長）

- ・ SDK2.0 や PLATEAU VIEW3.0 に技術的な興味がある。
- ・ PLATEAU VIEW2.0 では PLATEAU VIEW1.0 の機能が踏襲される一方、PLATEAU VIEW3.0 は大

きな変更を行うと理解した。

- ・ PLATEAU VIEW2.0のパーマリンクは3.0に継承されていくのかについてEukaryaにお聞きしたい。つまりバージョンが変わってもパーマリンクが生きていくことが想定されているのか。
  - 共有機能に関しては、自治体の方々が手軽にデータを可視化・共有したいという要望があるため、機能としては残していきたい。(Eukarya 馬場英道氏)
  - 一方、PLATEAU VIEW2.0から3.0で大幅にUIが変わるため、そもそも無くなる機能・増える機能がある。また、2.0と3.0では機能がそもそも変わってしまう。(Eukarya 馬場英道氏)
  - 共有機能を改めて3.0で操作して共有いただくという形になると想定している。(Eukarya 馬場英道氏)
- ・ ストーリーテリングはPLATEAU VIEW3.0と分離すると理解した。分離したものが3.0にも反映されるのか、それとも分岐したまま別物となるのかをEukaryaにお聞きしたい。
  - ここで触れたストーリーテリングは、PLATEAU VIEWとは別物である。3D都市モデルを使ってストーリーテリングを作成すると、どのくらい魅力的なもの出来るかという観点で作成している。(Eukarya 馬場英道氏)
  - 一方、現在PLATEAU VIEW2.0にあるノーコードで誰でもストーリーテリングを作れる機能については、現状では視点移動しか出来ないため、機能自体を見直していく必要がある。(Eukarya 馬場英道氏)
  - 別プロジェクトでJREとRe:Earthを用いたストーリーテリングを進めているので、PLATEAU VIEWと切り離しながらもリッチなストーリーテリングを作れるような仕組みを提供していく方向性になると想定している。(Eukarya 馬場英道氏)
- ・ PLATEAU VIEWを含め3次元データを表現する中でも人間にとってのFPV的な主観的な見方をしていく上でストーリーテリングの機能は重要な位置づけになると考えており、良い方向に進むと良いと考えている。
  - PLATEAU VIEW3.0はレンダリングの品質も向上させつつ、ユニバーサルに誰でも使えるツールにしていきたい。パフォーマンスを挙げてサクサク使えるものを作っていきたい。(国土交通省 都市局 内山補佐)
  - いくつかの自治体と話をしていると、ブラウザで見るととても重いという意見があり、パフォーマンスの観点は重要と考えている。(青山学院大学教授 古橋座長)
  - 理解しており、検討を進める。(国土交通省 都市局 内山補佐)
- ・ 本日のメインピックであるPLATEAUのビジョンだが、KPIとしての200都市・500都市が近づいてきている中で、戦略的に500都市に広げていくアプローチとして、隣接している自治体の協働データ整備を狙っていく等が重要となると考えている。
  - 仰る通り、自治体が協働してPLATEAUを一体整備することはあっても良いのでは考えている。会計制度的な建付けはあるが、推進していきたいと考えている。(国土交通省 都市局 内山補佐)
- ・ リーガル面の部分がドキュメントとして組み込まれたことが重要であると考えている。逆に言うと、どのようにドキュメントを読む場を作れば良いのかは考える必要がある。例えば、重要な部分のみをHTMLのドキュメント・リンクで抜き出して共有できるようにするということがあると良いのでは。
  - ガイダンス・ドキュメントのエッセンスを抜き出して簡単に見られるようにするということを

考えている。(国土交通省 都市局 内山補佐)

- ドキュメントがあることは重要であり、今まで溜まった PLATEAU のドキュメントを生成系の AI に入れておくことで、24 時間 PLATEAU に対する質問に答える AI がそのうち出てくるのではないか。(青山学院大学教授 古橋座長)
- 良いアイデアだと思う。(国土交通省 都市局 内山補佐)

#### ○事務連絡

- ・ 次回分科会
  - 開催日程：9 月 15 日（金）
  - 開催方式：Web
  - 開催内容・アジェンダ：FOSS4G の結果共有、オープンデータの利活用状況、GIS 業界の現状、マッチング支援イベントの結果共有（別途、正式に共有予定）
- ・ お願い
  - ご提案・ご意見があれば事務局にメールいただきたい。
  - Slack を利用して産官学の意見交換・情報形成の場としてコミュニティチャネルを提供しているため、ご参加されたい方は連絡をいただきたい。

以上